



熊野市新鹿町の里川にかかる向井田橋北側の民家の石垣にある「津浪留」の拡大写真。「津浪留 嘉永七寅十一月四日晝五ツ時濱邊ヨリ凡三丈上ル 井本屋」と刻まれており、1854年安政東海地震の際、津波がこの場所まで押し寄せたことを伝えている。

熊野市指定文化財

民俗文化財 有形民俗文化財

嘉永の「津浪留」の碑

- 一、形態 津波止の石垣に切付石を配す。
- 二、位置 新鹿向井田 津波のきた地点。
- 三、建立者 当時の杖木商井本屋の汐留。
嘉永七年の大地震で 津波は里川を
遡り、二股川を上り、井本屋という杖
木商の石垣迄押し寄せる。流家多く、
死者六人、家畜も沢山流される。井本
屋の主人又四郎は石垣改築にあたり、
「津浪留、嘉永七寅十一月四日昼五ツ
時、浜辺より凡三丈上る。井本屋」と
切付。側の石橋も流されたがこれも現存。
「嘉永七寅六月、井本又四郎架ス」の
切付あり。

指定 平成四年二月二十日

熊野市教育委員会



熊野市新鹿町の里川にかかる向井田橋北側の民家の石垣にある「津浪留」の遠景。写真中央の石垣の中に大きな石がはめこまれているのが「津浪留」。